

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉実習指導Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3185
2. 授業担当教員	森田 和美/山口 大輔		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉実習指導Ⅲは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>精神保健福祉実習指導Ⅲでは、精神保健福祉実習 (A 実習) と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び (実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。さらに、精神保健福祉実習 (B 実習) の準備と事後学習も行う。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉実習指導Ⅲが終了した時点で、以下の目標を達成することが期待される。</p> <p>①精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。</p> <p>②精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>③具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を寛容する。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 実習体験における事例の報告</p> <p>2. A 実習の進捗状況の報告 (帰校指導報告書の作成)</p> <p>3. A 実習の実習総括レポートの作成</p> <p>4. B 実習の実習総括レポートの作成</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク実習指導・実習 (精神保健福祉専門) 』中央法規出版</p> <p>東京福祉大学『精神保健福祉実習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】</p> <p>精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規出版</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 2 種の実習の振り返りから学びと課題を整理、言語化できる。</p> <p>2. 実習に際して必要な各種書類を期限内に提出できる。</p> <p>3. 精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を修得した。</p> <p>4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得した。</p> <p>5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得した。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 授業時の提出物 20%</p> <p>2. 実習総括レポート 50%</p> <p>3. 授業への積極的参加態度 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <p>1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。</p> <p>2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。</p> <p>3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</p> <p>4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。</p> <p>5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。</p> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <p>1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。</p> <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		

13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・精神保健福祉実習指導IIの振り返りと確認 ・精神保健福祉実習指導IIIの内容、進め方の説明 ・精神保健福祉実習(A実習)に向けて、実習計画の確認	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習の自身の課題を振り返り、精神保健福祉実習(A実習)開始前に取り組むべきことを確認する
		事後学習	実習開始に備える
第2回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解：ケース記録に取り組む意義、実習における取組方(ソーシャルワークの知識と技術)	事前学習	実習における課題を書き出す
		事後学習	次の実習日に活かすことをまとめる
第3回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解：記載方法の理解(ソーシャルワークの知識と技術)	事前学習	実習における課題を書き出す
		事後学習	次の実習日に活かすことをまとめる
第4回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いた検討	事前学習	帰校指導記録を作成する
		事後学習	授業での学びをまとめ、帰校指導記録を完成させる
第5回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・実習中の体験をもとに精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務について理解を深める	事前学習	実習における課題を書き出す
		事後学習	次の実習日に活かすことをまとめる
第6回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いた検討	事前学習	帰校指導記録を作成する
		事後学習	授業での学びをまとめ、帰校指導記録を完成させる
第7回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・事例検討の意義と方法	事前学習	実習における課題を書き出す
		事後学習	次の実習日に活かすことをまとめる
第8回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・実践事例の報告と検討：担当しているケースについての報告と意見交換(理論と実践の統合化)	事前学習	実践事例報告の準備
		事後学習	次の実習日に活かすことをまとめる
第9回	・実習の振り返り：自己評価の実施、ソーシャルワーカーとしての自身について理解を深める(精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理に基づく自身の課題把握)	事前学習	実習における課題を書き出す
		事後学習	授業での学びと気づきをまとめる
第10回	・精神保健福祉実習(B実習)に向けての準備：B実習における実習課題の説明 ・実習施設概要、実習計画の作成	事前学習	精神保健福祉実習Iを通しての課題を書き出す
		事後学習	実習先に関して情報を収集する
第11回	・見学実習(事前訪問)に向けての準備 ※精神保健福祉実習開始前までに実習指導III担当教員から添削指導を受けた実習計画を実習指導者へ提出、協議を行う。	事前学習	実習計画の修正を行う
		事後学習	見学実習のための準備を行う
第12回	・見学実習(事前訪問)の総括：実習計画に関する実習指導者との協議事項を踏まえて実習計画の完成 ・精神保健福祉実習第B実習に向けた事前準備の最終確認：学習のまとめと、B実習開始に向けての課題整理	事前学習	見学実習報告書を作成する、実習計画を完成させる
		事後学習	B実習に向けて準備を整える
第13回	・実習の振り返り：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	事前学習	B実習を振り返る
		事後学習	授業を通しての学びと気づきをまとめる
第14回	・実習の評価全体総括会(実習成果発表会①)	事前学習	報告のための資料準備
		事後学習	授業での学びと気づきをまとめる
第15回	・実習の評価全体総括会(実習成果発表会②)	事前学習	報告のための資料準備
		事後学習	授業での学びと気づきをまとめる ソーシャルワーカーとしての自身のストレングスと課題をまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習/実習コンピテンス関連事項	時期	授業回数との関連 * おおよその目安、変動あり
A実習開始	10月第1週より	第1回の週に開始
帰校日指導	10月～12月に 2回実施	第4回、第6回あたりに実施
A実習終了	12月中旬	第8回～第9回あたりで終了
セルフアセスメントの実施④	第一段階実習終了後	実習終了後各自実施し、実習記録に閉じて提出する
B実習先決定・発表	12月初旬	第6回～第8回あたりで発表
★実習先「施設概要」下書き提出	1月初め	第10～第12回あたり、1月最初の授業で持参する
セルフアセスメントの実地⑥	1月後半	B実習前に実施
B実習先事前訪問	2月初め	2月初めの授業補講期間等を利用して学生個別に実施
セルフアセスメントの実施⑥	B実習終了後	実習終了後各自実施し、実習記録に閉じて提出する
B実習事後指導	3月下旬	第13回～第15回